

統合医療でがんを克つ 2013年11月号より

特集 がん治療と補完代替医療

がん患者のためのホメオパシー

— 自己治癒力を触発して健康に導く治療法

高野弘之 池尻クリニック院長

ホメオパシー療法とはホメオパシー（同種療法）とは、今から約200年前にドイツ人医師ハーネマンにより確立された自然療法です。人間が誰でも持っている自己治癒力を触発して健康になっていく健康法で、インドでは国の第一医学の1つとして積極的に奨励され、人口の約半数が利用しています。全世界では10億人以上が利用する、漢方療法に次いで利用人口の多い療法です。鍼灸などと同じくエネルギー療法に属しますが、自己治癒力を刺激する方法として、原材料を天文学的に薄め・叩いて（希釈震盪して）つくられるレメディ（砂糖玉や液体）を使います。最もポピュラーな30Cという希釈度のレメディは、銀河系に涙一滴の薄さで、当然原材料の成分はまったく含まれていません。そのため一般の薬のような物質的な副作用がないのが特徴で、妊婦さんや赤ん坊も安心して使えます。日本ではプラシーボ効果にすぎないと否定する方もおられますが、その批判は見当違いです。プラシーボ効果の期待できない、赤ん坊・動物・植物にも著しい効果が見られるからです。

がん治療へのホメオパシーの応用

未病段階からの体質改善や体毒のデトックスにも応用できます。免疫力を落とし、がんの原因となる心の問題である罪悪感などインナーチャイルドの癒しにも応用可能です。がんが発見されてからの治療では現代医学の治療法や他の療法と併用されることも多く、特に免疫力を上げるさまざまなアプローチが可能です。抗がん剤や放射線治療の副作用の軽減、術後の回復サポート、がんによる痛みの軽減など苦痛のケアも得意とする療法で現代医学との併用も推奨されます。また、さまざまな負担の大きいがん患者さんの家族の心身のケアにも有効です。プロのホメオパス（ホメオパシー療法家）による健康相談では、がん告知により精神的なショックを受けた方や、死の恐怖に怯える方などの心を癒す療法と

しての側面もあります。とりわけがん治療においては、心、考え方、食なども含めた統合的な治療が必要となります。詳細は「日本ホメオパシーセンター本部」のホームページに掲載されている「癌の方々へ由井寅子からのメッセージ(癌の十ヶ条)」

http://jphma.org/About_homoe/to_cancer_patient_20120224.html をお読みください。ホメオパシーには解決策と希望がありますので、ぜひ選択肢の1つとして知っておいていただきたいと思います。

ホメオパシーとの出逢い

私は栃木県の自治医科大学を卒業後、出身県である長崎の離島で診療に携わってきました。地域医療の第一線で診療を続けていくなかで、良かれと思っで行われている治療法で弱っていく患者さんが多いことに気付き「やれることをやる」のは当然のことながら「やらなくてすむことをやらない」医療を目指すようになり、現代医学的な身体の負担になる方法とは違った代替医療について研究しました。その中で、体系化された治療方法を持ち、患者さんに害がなく、治療実績の豊富なホメオパシー治療にとっても魅力と可能性を感じ興味を持ちました。自分自身やわが子に対して実際に試してみたところ、病院で処方される現代医薬を使った方法よりも良いものだという実感がありましたので、この治療法を詳しく勉強して患者さんに対しても使えるようになりたいと思うようになりました。そこで、発達障害や精神疾患・自己免疫疾患・がんなど現代医学で難治とされる分野で大きな成果を上げ海外のホメオパスからも注目されている由井寅子氏の門を叩きました。ちょうど従来の教育体制を充実し、4年制のホメオパシー統合医療専門校（CHhom /シーエイチホーム）が新しく開校する時期だったので、プロのホメオパスを目指すべく迷わず門下生として入学し学び始めました。私が1から徹底的に勉強しようと思ったのは、鍼灸・漢方医学でもそうですが、近代西洋医学とは別の体系で発展してきた伝統医学の真髄を極めるには、医師であっても時間をかけてその専門性を学び、身に付ける教育と訓練を受けなければならないと考えたからです。欧州などでもホメオパシーはもう1つの医学とされ、大変に深い専門性を学ぶことが求められています。現在は最終学年ですが、この治療法の奥の深さと幅の広さを知れば知るほど、一生学んでいく価値のある真の医学であると実感しています。

医師として、患者とホメオパシーの架け橋に

4年間学んでいくなかで、日本ではホメオパシーを安心して利用していただくために、各種検査や外科手術、現代医学的な面での相談なども含め、患者さんをサポートするクリニ

ックや病院の役割が特に求められていると考え、渋谷からひと駅の池尻大橋に、昨年（2012年）5月に池尻クリニック（内科・小児科）を開業しました。池尻クリニックは、600名のプロのホメオパスを管轄する日本ホメオパシー医学協会（JPHMA）・数万人のホメオパシー利用者の団体「ホメオパシーとらのこ会」とも提携しています。過去に薬の副作用などで苦しんだ経験がある方や、一般的な医療や薬・検査・あるいは医師に対して不信や抵抗をお持ちの方もたくさんおられますので、そういった方でも安心して相談できるクリニックとしての役割を果たすべく「患者や家族の心に寄り添って」を信念に診療や活動を行っています。

実際のがん治療への応用のケース

ホメオパシーはさまざまなタイプのがんに応用され成果を上げていますので、今回は豊富ながん治癒の臨床実績を持つ由井寅子氏のケースを紹介させていただきます。がんに対しては、ホメオパシーのレメディーに加えて、ハーブ・マザーチンクチャーや食生活の改善、心のケアを組み合わせる行うことが効果的です。より深く、穏やかに作用することが求められますので、治療用には砂糖玉ではなく液体のレメディーが使われます。ここで紹介するのは、1年半にわたるホメオパシー健康相談会で、ダウン症候群の男児が、再発した急性白血病から回復したケースです。ホメオパシーでは症状を病気として捉えるのではなく、症状を真の原因を教えてくれている大切なシグナルと見て、病気の根本的な原因へのアプローチを行います。また、発熱・発疹・咳・鼻汁・嘔吐・下痢などの症状は体毒を体外に排出する自己治癒力の大切な営みでもあるという点も観察しながら対処していきます。

※改善事例や体験談は、書籍・ホームページやセミナー・学術大会でも公開されています。

白血病治癒ケース（ホメオパス 由井寅子）

12歳男性。出産時にダウン症候群と告知され 3歳9カ月で急性白血病を発症し入院。抗がん剤治療6カ月間 キロサイド（抗がん剤）＝5クール、4歳3カ月で抗がん剤治療を終了し退院。9歳9カ月で急性白血病が再発。10歳で健康相談会へ。その時点で血小板数1万3000。5回のホメオパシー相談会の後、検査結果はすべて基準値内に収まっています。1年半で難治の白血病が改善したケースです。

相談会（1回目）2011年4月21日（約1時間）で出されたレメディー

ヒ素のレメディー（急性・慢性を繰り返す白血病の症状に合う）。最も緊急な臓器である心臓のサポートチンクチャー（血液循環が困難な状態をサポート）。抗がん剤・抗生剤を薄めてつくられたレメディー（副作用の害をサポート）。アルミニウムと水銀の排泄を促進するレメディー（この両物質が多くの若者の白血病の原因と推定され、ワクチン経由で世代を超え体内に蓄積される）。硫化カルシウムのレメディー（白血病で血中に多くの膿が溜まることへの対策）。

相談会（2回目）2011年7月14日 変化と出されたレメディー

レメディーを摂り始めて翌日くらいから痰のからんだような咳が始まり、背中に赤みが強いブツブツが出て、口の周りの発疹が落ち着いた。耳から膿が出た。汗をかくようになった。自分を否定されると涙を流した（初めて感情を表した）。症状が進展したので、脾臓のサポートチンクチャー。タミフル薬害の排泄レメディー。硫酸のレメディー（体内老廃物排出の促進）。リン酸カルシウムのレメディー（がんの人のミネラルバランスを整えるため）。

相談会（3回目）2012年2月16日 変化と出されたレメディー

2回目の相談会の後、インフルエンザにかかり高熱が出た。急性白血病の状態は改善し、赤血球の数値が基準値内となる。小腸サポートチンクチャー（赤血球・白血球・血小板、すべては実は主には骨髄ではなく腸でつくられる（千島学説）。腸のケアが白血病に重要）。抗がん剤のレメディー。この子の生まれ持った根本体質（体の弱さ）の珪素のレメディー。身体がとても冷える Squil という海葱のレメディー。

相談会（4回目）2012年7月12日 変化と出されたレメディー

血液検査の結果が改善、38～39℃の発熱・咳・顔の発疹が再度出始める。左足に水虫。滲出性中耳炎が続く。肺のサポートチンクチャー。リンのレメディー（細胞や血中に光を与え、地に足を付ける）。疥癬のレメディー（生命エネルギーの流れを刺激）。植物炭のレメディー（体内と血中に酸素を運び込み、血液を活性化）。

相談会（5回目）2012年10月11日 変化と出されたレメディー

血液検査の結果、総蛋白値が上がる。身長が伸びた。以前は話すことができなかったがこの頃には一生懸命話そうとして、どもる。皮膚の発疹（口の周り・頬部・足の裏・足の指）

は改善。滲出性中耳炎は改善し左耳が治る。肺のサポートチンクチャー。炭酸カルシウムのレメディー（骨をしっかりさせる）。水銀とリン酸カルシウムのレメディー（梅毒傾向を取り遺伝病の対策をし、骨をしっかりさせる）。

初回の時点で赤血球値が390万/ μ Lだったのが、最初のレメディーですぐにはほぼ正常値となり、5回目の相談会では基準値内に入りました。あとは血中総蛋白の問題だけが残っていたのですが、アルファルファのマザーチンクチャーを摂ったところ、総蛋白も増加し正常値になりました。1年半にわたるホメオパシー相談会で、彼は正常な身体になり身長も伸び白血病から回復しました。ホメオパスは病める人を病気にしたありとあらゆる可能性を調べ、同種のレメディーを与えます。そうすることで難病にも希望の光が差します。

最後に

ホメオパシーには、がんをはじめさまざまな病気の治療をサポートできる可能性があります。西洋医学の検査や診断などと並行して取り組むことも可能です。がんへの対処は、まず必要な情報を収集し知ることから始まります。ホメオパシーの利用を検討している方は池尻クリニック（TEL03-5779-9123）までご相談ください。日本ホメオパシーセンター本部（TEL03-5779-8007）でも、ホメオパシー療法やホメオパシー健康相談についての質問に対して電話での相談にも対応しています。

*マザーチンクチャー注射：植物をお酒に漬けて込んでエキスを抽出したもののことです。その中には植物の強力な生長する力や栄養が濃縮されており、エネルギーに満ちあふれています。